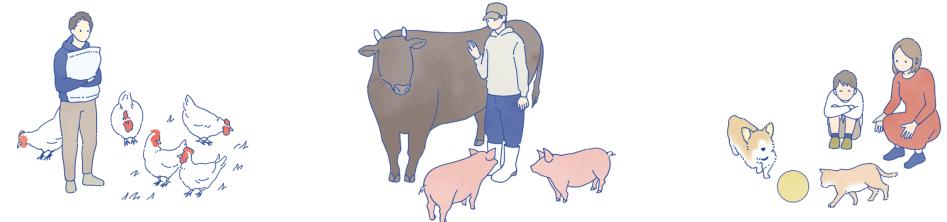


ZENOAQ ANNUAL REPORT 2024

— 人と動物の、一步先ゆく未来を —



[アニュアルレポートに関するお問合せ先]

日本全薬工業株式会社 経営支援本部 総務部 総務チーム

〒963-0196 福島県郡山市安積町笛川字平ノ上1-1

 024-945-2300  zenoaq_pr@zenoaq.jp



To Enhance the value of animals

いまも、そして未来も、
私たちが目指しているのは、
動物と人の共生です。
そのためにできることを、一步一步、少しづつ。

現代において、動物が社会に与える影響は年々大きくなっています。

人は、畜産動物から命の恵みをいただき、ペットから癒しなどの心の潤いをいただいている。

一方で、野生動物を起源とする様々な感染症は、人間や畜産動物の健康に度々影響を与えていています。

私たちゼノックは、動物用医薬品メーカーとして、動物が健康で元気な生活を送れるようお手伝いすることで「畜産物の安定供給」や「動物との絆を深める」といった「持続可能な目標の達成」に大きな役割を担っていると自負しています。

「ビジョン2030」において私たちは日本に、世界に、独自性のある製品を提供し、動物のため、ひいては社会のために貢献し続ける企業を目指してまいります。



トップメッセージ

Top Message

ありがとうございます。

2023年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、社会に再び活気が戻り始めましたが、紛争や経済摩擦など、世界情勢・経済動向は引き続き不透明となり、コストの上昇や物資の供給問題により、当社と関係の深い畜産や獣医療の現場は大きな影響を受けました。

また国内では豚熱の感染拡大が続き、北海道を除くすべての地域がワクチン推奨地域となっているほか、未だ治療法が確立されないアフリカ豚熱が韓国・釜山の野生猪で確認されており、日本への侵入を防ぐため厳重な防疫体制が敷かれています。

一方、近年課題となっている薬剤耐性対策においては、先ごろ厚労省より「薬剤耐性対策アクションプラン2023-2027」が発表され、抗微生物剤の適正使用に数値目標を設定するなど、より具体的な取り組みが掲げられました。欧米ではいち早く対策が進んでおり、国内でも生産現場での適正使用、慎重使用が一層求められています。

このように近年畜産、動物を取り巻く環境は様々な変化の中にあり、生産性、公衆衛生の観点から、動物用医薬品の果たす役割が改めてクローズアップされています。ゼノックは、お客様に必要とされる安心・安全、高品質の動物用医薬品を安定供給することの重要性を鑑み、今後とも法令順守を第一に、研究開発、生産といった部門における研鑽、技術の継承、そして人材教育・育成を継続して参ります。

当社は動物用医薬品企業として世界でも例のない、独自の直販体制を有しております。この機能を最大限活用し、お客様に寄り添った営業活動を継続するとともに、オンライン面談を活用した効率化や、ウェブマガジン運営による業界全体の活性化を目指した活動を行っています。また学術講習会のオンライン開催の仕組みを構築し、受講者の利便性が飛躍的に向上しています。自社の強みを活かし、つながるすべての人々の幸福に貢献できるよう、失敗を恐れず何事にも挑戦していきます。

2024年度も、さらに皆様のお役に立てるよう社員一同努力を続けてまいります。引き続きご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



代表取締役社長

福井 寿一

Fukui Toshikazu

目 次

Table of contents

02 トップメッセージ

03 目次

04 01 お客様とゼノアック

高品質な製品・サービスの提供 / WEBサービスの提供 / 国際学会・展示会への協賛・出展

02 社員とゼノアック

社内調査 / キャリアアッププログラム2.0 / ゼノアックレド / 車座対話、理念深耕セッション / 多様な雇用形態 / ワークライフバランスと各種制度 / 福利厚生制度

03 コンプライアンス

コンプライアンス教育 / 動物実験と動物倫理 / 情報セキュリティ / 防疫管理 / 広告・表示の適正化 / 内部通報窓口の運用

04 社会とゼノアック

お客様に対して / 動物と飼い主に対して / 環境に対して / グローバルな社会貢献

05 ガバナンス

CSRの考え方 / コンプライアンス行動規準 / コーポレートガバナンス
リスクマネジメント / 事業継続計画 (BCP)

06 会社概要

経営理念 / 基本原則 / ゼノアックプロミス / 会社概要 / 人事データ / 経営指標 / 組織図
ゼノアックの事業 / 製品紹介



01 お客様とゼノアック

ゼノアックでは
ダイレクトコミュニケーションの
強みを活かした営業活動をしています。



高品質な製品・サービスの提供

提案(課題解決)型営業

ゼノアックの営業活動は、単に製品を販売することではなく、お客様の抱えている悩みや課題を解決することを目的としています。例えば、

●CA営業部：疾病領域別のアクション

●LA営業部：疾患の根本原因から解決を図る「パッケージプラン」の提供

●PO営業部：環境調査、検査、成績分析からの改善提案など、お客様の課題を起点として様々な施策を展開しています。

●各営業部の対象動物種

営業部	対象動物種
CA営業部	犬・猫
LA営業部	牛・豚
PO営業部	鶏



検査サービス

ゼノアックではお客様へ各種検査サービスを実施しています。検査によって動物生体の異常、病原体の種類、当社製品の適合性などを明らかにすることで、お客様の抱える課題の原因追求や対策の立案に寄与します。検査サービスは営業、テクニカルサービス、研究所の三者が連携し、それぞれの専門性を活かすことでお客様満足に貢献しています。また新たな検査を確立したり、これまでの検査結果をデータベース化するなど、農場での感染傾向を迅速に特定し、新たな価値を創造するための活動も進めています。

●主な検査サービス項目

CA営業部	犬	パベシア(原虫)検査 Derf2特異的IgE抗体検査
	猫	ウイルスPCR検査
LA営業部	共通	血液生化学検査 下痢症起因菌検査 肺炎起因菌検査 ビタミン測定
	牛	微量ミネラル(Se)測定
PO営業部	豚	PCV2(ウイルス)検査 ※1検体に対するPCR・ELISAの同時検査 抗体検査
	鶏	Mg, MS(マイコプラズマ)リアルタイムPCR検査

TOPICS 第二製剤工場の新設

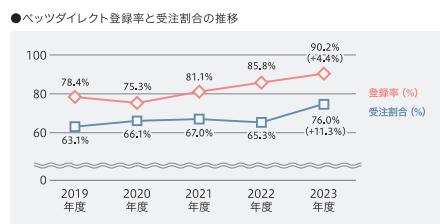
主に抗生物質注射剤・注入剤を製造する第二製剤工場を、2023年6月8日に竣工しました。
医薬品製造においてβラクタム構造を持つ抗生物質は、交差汚染のリスクを最小限に抑える必要があります。第二製剤工場では、抗生物質の交差汚染のリスクを最小限に抑えるための対策はもちろんのこと、最新の設備や機器を活用することで、より高品質かつ安全な医薬品の製造を実現し、国内の動物薬市場に製品を安定的に供給します。



WEB サービスの提供

ペツツダイレクト®

「ペツツダイレクト®」は動物病院専用のEコマースシステムです。業界に先駆け2006年から開始したこのサービスは、多くの方からご好評をいただいでいます。新製品のご案内やキャンペーン情報をいち早く提供するほかセミナー配信もし、ゼノアックと動物病院を結ぶ重要なプラットフォームとなっています。また、畜産物ポイント交換キャンペーンはご利用者様より好評をいただいでいます。

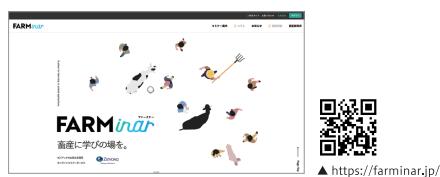


充実したWebメディア・セミナー

■farminar®（ファーミナー）

ゼノアックのお客様専用の、いつでも手軽にセミナーを視聴・参加できるオンライン上の学びの場です。生産現場で役立つ情報や、経営に役立つ情報をはじめ、農場運営に欠かせない情報を発信しています。

生産者だけではなく、畜産獣医師の方々に向けた情報も随時発信しています。



■#HugQ®（ハッシュハグ）

犬オーナー向けの「ハグワン」と猫オーナー向けの「ハグニャン」は、ペットオーナーと獣医師との間に立ち、滑らかなつなぎ役として機能するプラットフォームです。#HugQ®を通じて、ペットオーナーと獣医師をギュッ！とつなぎ、ペットとともに過ごすかけがえのない豊かな時間と社会に貢献していきます。

■チクタグ®

チクタグ®は、「物語まで味わう贅沢」をコンセプトに、畜産生産者が強い情熱とこだわりを持って生産した商品を直接お届けするオンラインストアです。当社が長年築き上げてきた日本全国の畜産生産者とのネットワークを活かし、まだ広く知られていなかった「こだわり」と「想い」に満ちた畜産物と畜産生産者のストーリーを提供します。



国際学会・展示会への協賛・出展

ゼノアックは動物の価値を高めることのできるグローバル企業を目指し、その独自技術を用いた製品がもたらす価値を、日本のみならず世界に広く提案する取り組みを行っています。活動の一環としてアジアやヨーロッパで開催される学会や展示会などにも積極的に協賛、出展しています。2024年3月にはWorld Veterinary Cancer Congress Tokyo 2024（世界獣医がん学会2024）へゴールドスポンサーとして協賛しました。

02 社員とゼノアック

社員の声に耳を傾け
時代に応じた制度や取り組みを
導入しています。



社内調査

社員が「働きがい」を実感できる会社となるために、毎年社内調査を実施しています。

エンゲージメント調査では企業と従業員の信頼関係が「偏差値」で評価され、当社は全国平均より高い水準のスコアとなっています。

また、毎年正社員全員を対象にキャリア調査を実施しており、回答後は上司と今後のキャリアについての面談が行われれます。

これらの調査は組織体制や能力開発・職場環境など、会社と社員が発展し成長するための各施策に活用されます。

●エンゲージメント調査結果（2023年度）

	レーティング	トータルスコア*	他社平均	前回比
BB	52.3	(50.0)	-2.8	
会社満足度	3.4	(3.4)	±0	
仕事満足度	3.4	(3.4)	±0	
上司満足度	3.4	(3.4)	-0.1	
職場満足度	3.4	(3.4)	±0	

*トータルスコアは、全国平均を50.0とした時の偏差値

キャリアアッププログラム 2.0

2016年度から運用している教育体系「ゼノアック・キャリアアッププログラム」の改訂を行い、2023年度から「ゼノアック・キャリアアッププログラム2.0」がスタートしました。

【階層別研修】

ビジョン2030実現に向け、職務上の役割や立場、能力に応じた研修を揃え、それらを受講することで社員個々人がレベルアップしていきます。

【グローバル】

英語学習における初級、中級、上級の3つのコンテンツを揃え、社員が自身の英語力に応じたプログラムを受講することができます。

ゼノアッククレド

ゼノアックの社員は、経営理念の実現に向けて“自ら考え行動する”ことを目指します。ゼノアックは、心の拠り所となる全社員共通の価値観を「ゼノアッククレド」としてまとめ、全社員に配布しています。社員は常にクレドを携帯し、読み合わせや教育、振り返りなどをいながら、その浸透と実践に努めています。クレドの作成に当たっては、2021年の新経営理念体系策定時に、社長が選抜した社員と共に、ゼノアックとして大切にしてきたことやこれからの中経営に必要なことを盛り込み刷新しました。

【スキル】

学びの支援ツールとして動画学習（e-ラーニング）を提供し、社員自ら必要なスキルや知識を習得します。

【専門】

職務遂行において必要となる講習会や勉強会を各組織を開催し所属員が受講することで職務遂行能力を高めています。また、専門性を更に高めるために外部セミナーや学会へ参加します。



車座対話、理念深耕セッション

経営幹部が5～7人の社員（嘱託、パート、派遣社員を含む）と車座になり、時には飲食をともにしながら自由に対話をします。社長、副社長、専務は部署横断的なメンバーと、部署担当役員はそれぞれの部署のメンバーと定期的に開催しています。テーマはビジョン2030に向けてなど、社員は忌憚のない意見を述べ、経営幹部は社員に直接語りかけることで、お互いの理解を深めます。

また、2021年度より理念体系が刷新されたことを受け、理念について社長と直接意見交換を行う場として「理念深耕セッション」を設けております。この取り組みは、2年間ですでに16回、116名に対して実施しており、理念に対する理解度を向上させ、会社の将来に対する価値観を共有する機会となっております。

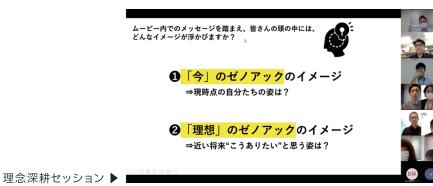
多様な雇用形態

ゼノアックでは業務内容や期待役割に応じて、正社員、嘱託社員、パート社員など様々な働き方を提供しています。パート社員や嘱託社員からの正社員登用制度もあります。60歳の定年を迎えた社員は、再雇用制度により65歳まで希望に応じて働き、長年培ったスキルやノウハウを社内に伝承する大切な役割を担って活躍しています。

また、国籍、人種、宗教、障がいの有無にかかわらず、魅力的な人材の確保をすすめています。障がい者雇用では、地域の特別支援学校への訪問やハローワークの主催する障がい者合同面接会などに参加し、採用活動を行っています。障がいの種類や程度に応じて様々な仕事を行っていますが、対話をさらに重ね、その要望を汲み取り、その社員にあった働き方が実現できるよう努めています。



◀ 車座対話



理念深耕セッション ▶



▲ 外国籍の社員の雇用



▲ 障がいを持つ社員の雇用

ワークライフバランスと各種制度

社員の価値観やライフスタイルの多様化に対応し、子育てや介護、家庭・地域活動・自己啓発等に個人の時間を持ち、健康で豊かな生活ができるようさまざまな制度があります。また再雇用嘱託制度の見直しを実施し、2023年度より60歳以降は役割と勤務内容により働き方を選択できるようになります。

【制度の種類】

フレックスタイム制度、リフレッシュ休暇制度、雇用形態一時変更制度、看護・介護休暇制度、退職者再雇用制度、在宅勤務制度等

福利厚生制度

ゼノアックでは、小学校に入学する社員の児童全員に毎年ランドセルを贈っています。創業者が長男にランドセルを買い与えることができなかつた辛い経験から、社員には同じ思いをさせたくないと考え、1957（昭和32）年から現在まで継続しています。



また、社員相互の親睦を図り、会社の発展を目的とした磐梯会は、スポーツ・文化のための各種部活動のサポート、社内親睦行事の主催やサポート、慶弔や傷病等へのお見舞いなど、会社と社員、その家族との心をつなぐ大切な役割を担っています。

その他にも、旅行やレジャー、ショッピング、スポーツ、通信教育、生活サービス等を利用することができる社外の福利厚生サービスなど、様々な福利厚生制度があります。



▲ 茶道部



03 コンプライアンス

高い倫理観で自らを律し
社会の信頼と期待に応えます。



コンプライアンス教育

CSR委員会の指示のもと、各部署で年1回のコンプライアンス教育を実施しています。コンプライアンス推進責任者（管理職）が教育計画の立案と教育実施後の報告を行っており、統括するCSR委員会では、コンテンツが陳腐化しないよう最新の教材へ入れ替えるなどの見直しをしています。

動物実験と動物倫理

動物実験に関する規程

ゼノアックでは科学的・動物福祉の観点から適正な動物実験を実施するため、関連法令やガイドラインに則り、4R^{*}を全社共通の基本理念とした「動物実験等に関する規程」を制定しています。

動物実験の実施に際しては、この規程に従って試験計画書と動物実験審査申請書を作成し、動物実験委員会による審査及び管理者の承認の下に実験が行われる体制になっています。

動物倫理・福祉教育

研究開発本部では適切な動物実験を実施するため、内部または外部講師を招いて、定期的に動物福祉に関する社員教育を実施しています。

また、実験棟のある本社の敷地には畜魂碑があり、年に2回、動物慰靈祭が行われます。



情報セキュリティ

情報セキュリティは、ICTマネジメント部が主導して推進を行っています。システム管理やその情報管理に関する「情報システム管理規程」ならびに「情報システム管理規程細則」を定め、情報・データの安全性や正確性の確保、利用方法など隨時見直しを行っています。ウイルスやマルウェア対

ます。また年に1回自己点検を行い、適切な動物実験が行われていることを確認しています。

*4R : 1957年、W.M.S.Russellによって提唱された動物実験の3Rの原則、Replacement(代替法の活用)、Reduction(使用数の削減)、Refinement(苦痛の削減)に、1995年R.Banksによって提唱されたResponsibility(責任)を加えた4つの原則。

策として、ゼロトラストセキュリティモデルをベースに、各種セキュリティアプリケーションやメールフィルタリングサービスを導入しています。社員に向けては社内eラーニングを利用し、情報セキュリティ教育やその理解度調査を定期的に実施し、全社的な意識向上に努めています。

防疫管理

防疫体制の確立

口蹄疫、鳥インフルエンザ、豚熱(CSF)などの家畜の伝染病は、地域の畜産業に重大な被害をもたらし、またBSEなどの人獣共通感染症は人の健康も脅かします。伝染病の発生時にはRM委員会や緊急対策本部からの通達により、蔓延防止の対策措置や支援物資（消毒薬等）の供給などが行われ、販売拠点では現地の家畜保健所と連携をとって対応にあたっています。

車両消毒装置

本社と小林工場では、構内に通じる門に車両消毒装置を設置し、車両による病原微生物の侵入・媒介を防ぐ対策を行っています。中国の天津全薬では大型の消毒装置を早くから設置し運用しています。またすべての拠点の出入り口に消毒マットを設置し、建物内外に病原体が拡散することを防いでいます。



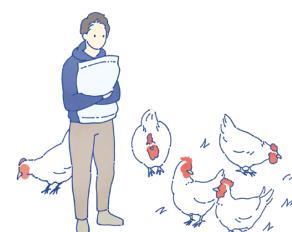
広告・表示の適正化

ゼノアックでは、お客様へ配布する広告物やパッケージ、添付文書等について、関連法令に準じて作成されていることを確認・承認するシステム「ZENOAQ-CLC^{*}」を使用し、販売製品の広告・表示等に関するコンプライアンス遵守に取り組んでいます。

^{*}CLC : Customer Literature Clearance の略。

内部通報窓口の運用

ゼノアックコンプライアンス行動規準や法令に違反する行為などについて、社員が直接通報や相談ができる仕組みがあります。「ゼノアック内部通報規程」に基づき「ゼノアックコンプライアンスヘルpline」の名称で、社内のCSR委員長と社外の顧問弁護士に窓口（女性専用の窓口を併設）を設置し運用しています。



04

社会とゼノアック

畜産・動物関連業界への社会貢献や、環境・地域発展に寄与する取り組みを行っています。



お客様に対して

しゃくなげ会

1961年、創業者が畜産先進国アメリカを視察した際、自社の発展は日本の畜産の発展にあることに気づき、のちに畜産技術者と臨床獣医師の技術向上と交流の場を提供する「しゃくなげ会」を立ち上げました。1969年に設立した北海道しゃくなげ会をはじめ、50年が経過した今では全国36都道府県を網羅する10の地区しゃくなげ会研修会が開催され、毎年全国でよそ1,100名が参加するまでになりました。研修会のテーマは、各地区的臨床獣医師を主体としたしゃくなげ会役員会でタイムリーかつ地域に密着した内容となるよう検討しています。長年の実績により、地区しゃくなげ会は（公社）日本獣医師会の「獣医師生涯研修事業」に民間企業の研修会で唯一認定されており、獣医師、畜産関係者の卒後教育の場として畜産界発展に寄与しています。



ゼノアックエクステンションセミナー

しゃくなげ会が座学中心の研修会であるのに対し、本セミナーは「実習」が主体です。前身は「全国しゃくなげ会」で、1968年から毎年本社で開催され、全国から約100名の産業動物臨床獣医師が参加していました。その後高度化した本格的な実習とするため、2003年に名称を「ゼノアックエクステンションセミナー」と改め、最新の実習施設・機器を保有する獣医学系大学と連携し開催するようになりました。実習をより実りあるものとするため参加者数もそれまでの半分以下に絞り、若手・中堅獣医師を対象とした2日間にわたる集中セミナーとしました。これまでに酪農学園大学、岩手大学、麻布大学と連携し、輸液、蹄病、ダウナー症候群、繁殖などをテーマに開催しています。地区しゃくなげ会同様にアンケートを実施し、運営の改善に役立てています。近年はWEBを活用したオンラインセミナーを実施しています。



▲セミナーにおける実習風景

日本の畜産を応援するWEBマガジン「どっこいしょニッポン®」

「どっこいしょニッポン®」は、食の安心・安全を追求する国産畜産物の消費を促し、同時に畜産業界が抱えている高齢化や後継者問題などの課題について向き合い、さらには畜産業のイメージアップと興味・関心を広げることを目指した活動です。WEBサイトを2016年4月に立ち上げ、一

般消費者の皆様に日本の畜産の魅力を伝えるとともに、畜産関係者と消費者との双向面コミュニケーションの場となることを目指し情報の配信を行っています。

▶どっこいしょニッポン®のサイト・SNS一覧



家畜感染症発生時の支援

ゼノアックでは感染地域に対し自治体や地元獣医師会を通じて、消毒薬などの無償提供を提携メーカーと協力して行っています。2000年に宮崎県で発生した口蹄疫では消毒剤の無償提供、2004年に九州一円に発生した鳥インフルエンザには、日本養鶏協会を通じて養鶏生産者に消毒剤の無償提供、2010年の口蹄疫では社長を本部長とする緊急対策本部

を設け、消毒剤や鎮静剤の無償提供のほか、社員有志からの募金を含む義援金の寄贈、終息宣言が出るまでの間の獣医師（社員）派遣、消毒剤等の優先的供給等を行いました。近年では2022年に全国的に感染が広がった鳥インフルエンザへの対応として、メーカーと協力しお客様へ消毒剤を提供しました。

動物と飼い主に対して

セーブペットプロジェクト

ビジネスパートナーであるベーリングガーイングルハイムアニマルヘルスジャパン（株）と共に、犬猫の殺処分問題に取り組む活動として、2010年度より「セーブペットプロジェクト」を立ち上げ推進しています。この活動は、ノミ・マダニ駆除薬市場No.1ブランドであるフロントラインの売上的一部分を寄付することからスタートし、現在ではネクスガード、ネクスガードスペクトラ、プロードラインさらに犬フィラリア症予防薬カルドメックの売上的一部分、犬用デンタルガムのオーラベットの売り上げの一部も寄付されるようになりました。これらは主に殺処分低減に向けた様々な啓発や保護動物の譲渡を行う団体への寄付（保護犬・猫の医療費）、マイクロチップの普及活動などに充てられています。

セーブペットプロジェクトの仕組み
売り上げの一部を新しい家族を探す保護犬・保護猫たちのために役立てています。

新しい家族を探す保護犬や保護猫たちのために役立てています。
セーブペットプロジェクト
▶ https://twitter.com/savepetproject



▶ノミダニフィラリア.COM
https://n-d-f.com/spp/



身体障がい者補助犬の普及支援

ゼノアックは、身体障がい者補助犬（以下、補助犬）の普及活動を2002年から積極的に支援しています。日本身体障害者補助犬学会設立支援、（社福）日本介助犬協会と繁殖犬導入・飼育・繁殖に関わるプロジェクト立ち上げ、各種イベントでの補助犬デモンストレーションの協力、補助犬法の設立や改正に対する社員の署名、補助犬育成団体への製品供給などを行なう一方、補助犬ユーザー様をえた社内セミナー開催など社員の補助犬に対する理解とリテラシー向上にも努めています。

日本介助犬協会
人とのあわせにやさしい社会をめざして
▶ https://s-dog.jp/



▶ https://s-dog.jp/

動物を守るさまざまな取り組み

ゼノアックはJCOG（一般社団法人日本獣医がん臨床研究グループ）が取り組んでいる「キャットリボン運動」に協賛しています。

また、国の天然記念物であるイリオモテヤマネコを守るために、医療施設へ感染症予防ワクチンを無償提供しています。

乳がんで苦しむ猫をゼロにする。
キャットリボン運動
乳がんは、おうちで見つかる病気です。
▶ https://catribbon.jp/



▶猫の乳がんを予防するための「キャットリボン運動」
https://catribbon.jp/

福島県経営品質研究会の創設

ゼノアックは日本経営品質賞の受賞を機に、会津若松経営品質協議会の会員企業や県中地区の有力組織とともに、2018年7月、福島県経営品質研究会（FMQ）を立ち上げました。福島県内企業・組織の経営品質を高めること、そのため会員が協力して学び合い気付き合う場を提供することを目的とし、福島県の復興と事業開発向上に貢献したいと考えています。



自然災害・緊急時の支援

全国に販売拠点を有するゼノアックは、地震や豪雨、台風などの自然災害に対し、それぞれの自治体や獣医師会を通じて被災地支援を行ってきました。東日本大震災、熊本地震、北部九州豪雨への支援をはじめ、2018年の西日本豪雨では、日本赤十字社へ100万円を寄付、2019年の台風19号では福

島県内の各自治体に対し消毒用の消石灰やマスクなどの支援物資を提供しました。また、新型コロナウイルスの発生時においても、郡山医師会と日本獣医師会へ合わせて6万枚のマスクを寄付しました。

環境に対して

環境配慮型エネルギーへの転換

ゼノアックでは営業車輌約300台を保有することから、エコカー（ハイブリッド車）の導入を積極的に行いCO₂排出削減に努めています。また、生産工程に使用するボイラーの燃料をLNG（液化天然ガス）にすることで、省エネルギーに加え、CO₂・窒素酸化物・硫黄酸化物の排出削減を行っています。

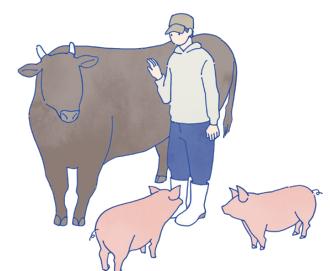


グローバルな社会貢献

HealthforAnimalsのコーポレートメンバーとしての取り組み

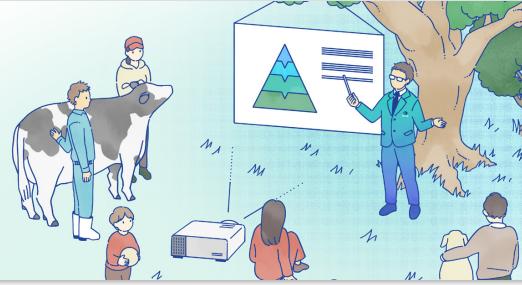
2019年3月、ゼノアックはHealthforAnimals（ヘルスフォーアニマルズ）のコーポレートメンバーになりました。日本では（公社）日本動物用医薬品協会がメンバーとなっていますが、日本を含むアジアのコーポレートメンバーとしては当社が初めての選任です。同団体は、開発途上国におけるアニマルヘルス企業と各国のアニマルヘルス協会の代表によって構成されている非営利・非政府組織で、「動物を疾病から守ることで人を疾病から守る」という価値を社会に提供します。抗生素の薬剤耐性菌や新型コロナウイルスなどの健

康に関する問題、動物福祉、飢餓をゼロに、環境問題など、さまざまなサステナビリティへの取り組みを行っています。2020年は新型コロナウイルスに関するメッセージや、コーポレートメンバーによるSDGsの取り組みなどを発信しました。世界のアニマルヘルス発展のため、当社は重責を全うしていきます。



05 ガバナンス

透明・公正な組織統治を実現し
全てのステークホルダーに提供する
企業価値を高めます。



CSRの考え方

ゼノアックCSR基本方針

ゼノアックは、経営理念の実現に向けて「コンプライアンス行動規準」で定めた基本姿勢のもと、動物用医薬品企業としての社会的責任を果たすとともに、社会の一員として信頼と共感をいただけるよう積極的に社会貢献活動に取り組みます。

CSRと委員会の活動領域

ゼノアックには7つの委員会があり、一般的なCSRの概念においてはこの7委員会の活動すべてによってCSRを推進しています。

【RM(リスクマネジメント)委員会】

危機管理体制の強化、コントロールチェック、予防、準備、啓発、訓練等

【安全衛生委員会】

安全衛生に関する施策・計画等についての調査・状況確認・審議等

【CSR委員会】

コンプライアンスの推進、社会貢献活動の推進社内外へのCSR活動情報発信

【基本姿勢】

1. 事業に関わる法令および企業倫理の遵守
2. 社会的に有用な製品・サービスの提供と安全性の確保
3. 動物の価値、人間と動物との共生

【省エネ推進委員会】

省エネ法に基づいた諸施策の立案・推進、エネルギー消費量のモニタリング

【薬事コンプライアンス委員会】

薬事コンプライアンス遵守体制の維持・向上を目的とした経営支援、ルールの整備、薬事監査等

【エンゲージメント向上委員会】

社員エンゲージメント向上に繋がる活動

【CS委員会】

お客様満足度向上のための活動・社内啓発

コンプライアンス行動規準

2004年、危機管理委員会（現RM委員会）はコンプライアンスの推進のためのスタンダード（行動憲章）と組織作りに着手し、2005年4月に「ゼノアック・コンプライアンス行動規準」を作成し、コンプライアンス推進委員会（現CSR委員会）を発足させました。行動規準はハンドブックとして全社員に配布し、新入社員研修を始め、各部署で実施するコンプライアンス教育やインターネットで展開するなど、さまざまな機会を通じてその内容や考え方への理解を深めています。2022年、行動基準の3度目の改訂を行い、冊子版からアプリ版へ移行しました。



コーポレートガバナンス

主な定例会議

2024年6月現在、ゼノアックの役員は7名（内、非常勤2名）、監査役1名で構成されています。

月1回開催される経営会議及び取締役会で重要事項を決定します。また、執行役員会（月1回）や部署長会（毎月第一営業日）が開催され、本部間および部署間の課題解決や連携について協議を行っています。

方針の伝達

経営方針説明会や月初めに行う全体朝礼は、全国の拠点を一斉にオンラインで結び、社長が自らの考え方や方針を直接社員に伝える場となっています。この映像はアーカイブされ、いつでもインターネットで視聴することが可能です。また経営方針はインターネットのほか、1964年から続く社内報にも掲載するなど、あらゆる機会を通じて、会社のあるべき姿や方針、価値観の共有を図っています。

リスクマネジメント

ゼノアックはリスクについて、通常業務において発生する「ビジネスリスク」と、災害や事件・事故等による「突発性リスク」そして「コンプライアンスリスク」の3つに分類し、マネジメントを行っています。
「ビジネスリスク」は、各部署が中期計画や年度計画といった事業計画においてそれらを管理します。年度計画では、さらに各部署の各施策別に想定されるリスクを抽出し、その対応策を事前に策定します。これらは部署別で事業計画全体についてのヒアリングを受け、最終的に取締役会の承認を経て実行・管理されます。

「突発性リスク」はRM委員会が担当します。事業継続計画（BCP）や危機管理マニュアルの策定・改訂をはじめ、危機に備えるための様々な準備や啓発活動をRM委員会が行っています。全社的な危機に発展する可能性のある事案が発生した際には、社長をトップとする「緊急対策本部」が設置され、対応を行います。

「コンプライアンスリスク」はCSR委員会が担当し、アセスメントと教育・啓発による予防対策が行われています。

事業継続計画(BCP)

ゼノアックは大規模地震など事業継続に大きく影響する災害が発生した際に、被害を最小限にして早期の事業復興を図るためのBCPを策定しています。

BCPでは、継続すべき最重要業務を「製品の受注および発送」と「GMP施設の稼働」の2つと定義し、すべての経営資源を当該業務の遂行に優先的に用いるとしています。また、BCPの実効性を高めるために、毎年、机上訓練を部署毎に実施しています。

06

会社概要

人と動物の、一步先ゆく未来を



経営理念

私たちには、動物の価値を高め、つながる全ての人々の幸福に貢献します。

当社はこれまで「社是^{*1}」「私たちの社会的使命^{*2}」という経営理念を掲げ、組織の存在意義を示し、多くの価値を社会に提供してきました。

これらに使われてきた「幸福」と「動物の価値」は継承したい言葉と位置づけ、新たな経営理念の中でも生き続けています。そして新たな価値観として「グローバル」を加え

ました。これを「つながるすべての人々」と表現し、日本のみならず世界中のステークホルダーの幸福に貢献していくという想いを込めています。

*1 社是：畜産先進国のアメリカ視察で動物薬メーカーの使命に気づきを得、1966年に制定。

「たゆまぬ鍛磨によって畜産界になくてはならぬ会社にしよう　ここで働くものがここにつながるものができる幸福になる会社にしよう」

*2 私たちの社会的使命：「新創業時代」と銘打った2001年に制定。
「動物が人間にもたらす恵みを豊かにすること、その動物のためになること　私たちは、常に動物の価値を高め、社会の幸せに貢献します」

基本原則 当社の社員に求める基本的な考え方や価値観を、4つの言葉に集約し表現しています。

感謝と真心

先取の精神

境界なき共創

治生産業順正法

先取の精神

時代の流れを読み、時代を作っていくためには、自らが積極的に挑戦し新たな価値を生み出していく意識が必要で、誰よりも早く新しいことに取り組むことを求めています。

境界なき共創

世界中のパートナーとの多元的な協働により、より多くの研究開発、事業開発の機会と可能性を生み出すことを目指します。

治生産業順正法 (じしょうさんごうしょうぼうじゅんず)

創業者の時代から継承してきた、お客様、社員とその家族、提携先・取引先、社会そして動物に対する感謝の気持ちを忘れないという精神です。

ゼノアッププロミス

当社外に対する明確な意思表明として、新たにブランドプロミスを策定しました。経営理念で描く姿の実現のために、将来にわたって当社が実行していくことをここに宣言し、お客様や社会に対して約束します。

動物がもたらす恵みを世界の人々と分かち合うために。

私たちは、たゆまぬ研鑽を重ね

常に可能性を探求し、動物の価値を高めることで

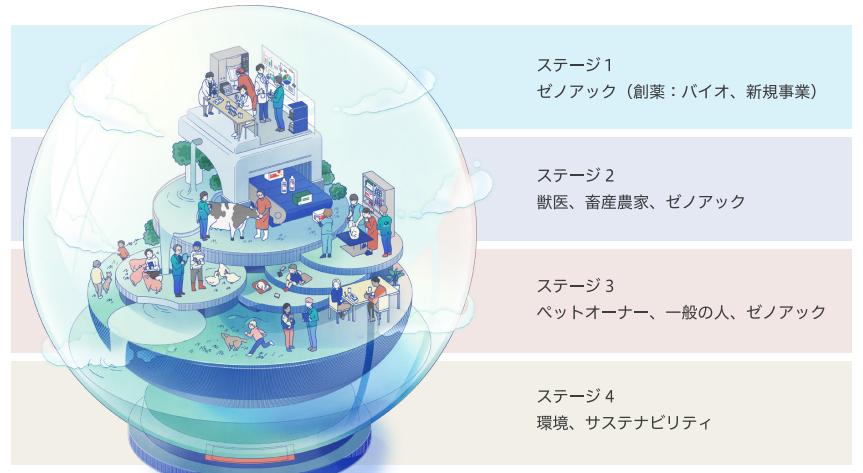
お客様と社会のニーズに応えます。

そして、動物にとっての健やかな環境と一人ひとりの心安らぐ豊かな暮らしを支えます。

キービジュアル

ゼノアップには、私たちの事業を視覚的に理解していただくためのキービジュアルがあります。

キービジュアルは、経営理念である「私たちは、動物の価値を高め、つながる全ての人々の幸福に貢献します。」の“つながる全ての人々の幸福に貢献する”を4つのステージに分けて表現しています。コーポレートサイト内のあらゆるページでこのビジュアルを展開しています。



ステージ1
ゼノアップ（創薬：バイオ、新規事業）

ステージ2
獣医、畜産農家、ゼノアップ

ステージ3
ペットオーナー、一般の人、ゼノアップ

ステージ4
環境、サステナビリティ

会社概要 2024年4月1日現在

名 称 日本全薬工業株式会社

所 在 地 〒963-0196 福島県郡山市安積町笛川字平ノ上1-1 TEL.024-945-2300 (代表)

設 立 1946年（昭和21年）5月

資 本 金 1億7,000万円

代 表 者 代表取締役社長 福井 寿一

事業内容 動物用医薬品及び医療機器等の研究開発・製造・輸出入・販売、バイオ原薬受託製造

株 主 ゼノアックホールディングス株式会社（持株比率100%）

従業員数 754名（2024年4月1日現在）

売 上 高 436億（2023年度）

主 な 販 売 先 畜産関係団体、家畜診療所、小動物病院、畜産農家・畜産農場、海外販売代理店

主 な 提 携 先（五十音順） アイデックスラボラトリーズ（株）、アリストヘルスアンドニュートリションサイエンス（株）、石原産業（株）、牛越生理学研究所、MSDアニマルヘルス（株）、エランコジャパン（株）、オカダインダストリ（株）、クリングルファーマ（株）、ケミン・ジャパン（株）、獣医医療開発（株）、ジンプロアニマルニュートリション（ジャパン）、インク、スペシャルニュートリエンツ、住化エンバイロメンタルサイエンス（株）、セバ・ジャパン（株）、大扇産業（株）、DSM（株）、デラバル（株）、東洋電化工業（株）、動物アレルギー検査（株）、日本農薬（株）、ビルパック、ファルミナペットフーズ・ジャパン（株）、ベーリングーイングルハイム アニマルヘルス ジャパン（株）

主 要 取引銀行 東邦銀行、みずほ銀行、三菱UFJ銀行、大東銀行、農林中央金庫

事 業 拠 点 本社工場、小林工場、中国工場（天津・南京）、東京支社、中央研究所、臨床牧場、全国の物流センターおよび直販拠点、海外事業所（北京、ニューヨーク）

グ ループ 会 社 ゼノジェンファーマ株式会社

子 会 社 天津全薬動物保健品有限公司、日本バイオロジカルズ株式会社

関連会社 中牧全薬（南京）動物薬品有限公司

人事データ 対象：正社員（2023年度）

平均年齢



40.4歳

男女比



男 7:3 女

文系理系の割合



文系 3:7 理系

平均勤続年数



16.0年

産休・育休復帰率

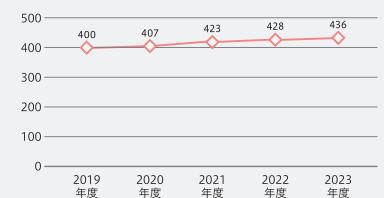


100%



経営指標 2023年4月1日現在

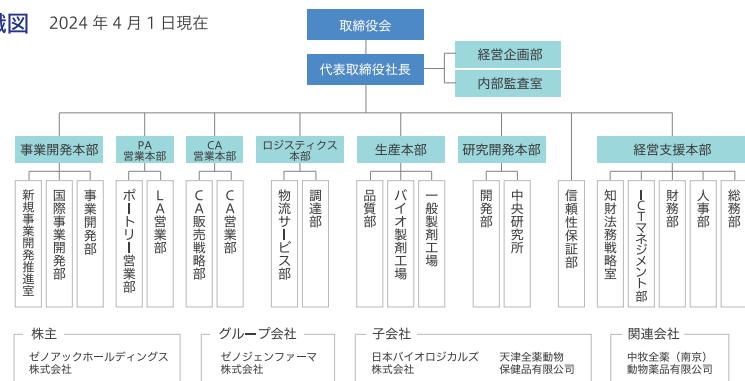
● 売上高（億円）



● 従業員数（人）



組織図 2024年4月1日現在



ゼノアックの事業

ゼノアックは動物用医薬品の専門企業として、研究開発から製造・仕入・輸出入・販売までを一貫して行っています。

対象とする市場は産業動物（牛・豚・鶏）とコンパニオンアニマル（犬・猫）、販売製品は動物用医薬品をはじめ、医療器材、飼料添加物、混合飼料、ペットフード、シャンプー、サブリメントなどです。

2021年度より新たに「ビジョン2030」を策定し、ゼノアックは日本から世界へ向けた高付加価値の製品開発に挑戦しています。

【ビジョン2030コンセプト】
バイオと共に世界のZENOAQへ
～新たな創造への挑戦～

ビジョン2030で最重要と位置づけるのが、ゼノアックのバイオ医薬品でグローバルに価値を提供できるようにすることです。バリューチェーン間の連携強化やビジネスパートナーとの協力を積極的に行うことで、事業化を更に加速させます。また、新規事業としてデジタルや情報を使した今までにない発想のビジネスモデルを探していきます。

製品紹介

取り扱い製品は、自社製品、提携メーカー製品をあわせて400種類以上あります。その中から主要な製品について紹介します。

動物用医薬品

猫用腎性貧血治療薬



猫の腎性貧血治療薬として開発された世界初のネコ・エリスロポエチノン製剤です。遺伝子組換え技術を用いて作製されたネコ・エリスロポエチノンに独自の製剤化技術を活用し、猫体内での長時間作用を実現させました。

動物用医薬品

犬用の膝炎急性期用抗炎症剤



世界で初めて承認された犬用の膝炎急性期用抗炎症剤です。これまで膝炎を対象とした動物用医薬品は存在しませんでした。サイトカインなどの刺激による接着分子の活性化を阻害し、抗炎症活性を示します。犬の膝炎急性期における臨床症状を改善します。

動物用医薬品

犬アトピー性皮膚炎の減感作療法薬



遺伝子組換タンパク質製剤です。犬アトピー性皮膚炎の治療はこれまで困難を極めていましたが、アレルゲンを特定して成分に使用することで、症状の改善に成功しました。人体薬を含めても、アレルゲンを限定した製品は世界初です。成分となる遺伝子組換タンパクは、福島の伝統産業であるカイコの生体を使って生産しています。

動物用医薬品

ノミ・マダニ・フィラリアなどの寄生虫駆除・予防剤



フィラリア症予防、ノミ・マダニ駆除、消化管内寄生虫駆除が一剤で出来る"オールインワン"タイプの製剤です。嗜好性の高いソフトチュアブルです。

製造販売業者：ベーリングインターナショナル・アニマルヘルスジャパン(株)

犬猫用食事療法食



「高品質の原材料」と「嗜好性」にこだわった自然派療法食で、動物病院から処方されます。動物は私たちの家族であるという思いのもと、「自然」を軸に、フェデリコ2世・ナボリ国立大学の動物栄養学部との連携と長期間の科学的研究を通して完成しました。

輸入業者：ファルミナベットフーズ・ジャパン株式会社



動物用医薬品

総合ミネラル固体塩



日本の畜産薬を代表するロングセラー製品です。独自の固形化技術により、雨や唾液などによって溶けにくく、各種微量ミネラルを均一に混合して固形化しているため、牛が自由に舐食することで、過剰摂取を防ぎながらバランス良くミネラルを摂取できます。

動物用医薬品

乳房炎用乳房注入剤グループ



泌乳期用と乾乳期用をラインナップしています。ゼノアックの独自技術により、拡散性の向上・使用禁止期間の短縮を実現した製品もあります。乳房注入剤でもゼノアックは高いシェアを占めています。

動物用医薬品

日本初の鶏用ベクターウクチン



日本初の鶏用ベクターウクチンで、既に世界75カ国以上で使用実績があります。その技術により、従来のワクチンのような、移行抗体の影響を受けやすい、鶏群の免疫レベルがバラつく、飲水投与が煩雑、などの課題を改善するとともに、孵化場で接種できるため農場でのワクチンの接種が不要です。人手不足の時代に適応した製品です。

製造販売元：
ベーリングインターナショナル・アニマルヘルス・ジャパン(株)

動物用医薬品

輸液剤グループ



ゼノアックの輸液剤は国内市場シェアの大部分を占めています。糖電解複合輸液剤、汎用輸液剤、栄養輸液剤、その他特殊用途輸液剤の4つのカテゴリー、計16種類からなり、目的や種類別に製品ラベルを色分けしています。

飼料

子牛関連製品



子牛の健康と成長をサポートする製品群として、生後間もないステージから離乳前後まで幅広くラインナップしています。

豚精液希釈保存用製品



BSA（牛血清アルブミン）を含まない、動物由来原料の規制をクリアした豚精液希釈保存用製品です。

動物用医薬品

鶏用生ワクチン



点眼接種のため、注射のストレスがなく、鶏に優しいワクチンです。それぞれ、MS感染に伴う呼吸器疾病（気嚢炎）の発症予防又は軽減、MG感染に伴う産卵率低下の軽減を目的とします。

製造販売元：日本バイオロジカルズ株式会社

発行／2024年7月

編集方針

■ このレポートについて

「ZENOAQ ANNUAL REPORT 2024」は、日本全薬工業株式会社（以下ゼノアック）のCSR（企業の社会的責任）活動の概要をステークホルダーの皆様にご報告するために発行しています。
(本編はCSRの国際規格であるISO26000の中核主題に準じた章構成とされています。)

■ 報告期間

主に2023年度（2023年4月1日～2024年3月31日）の活動を記載していますが、この期間を含む継続的な取り組み等についても取り上げています。

■ 報告範囲

ゼノアックグループは共通の価値観と経営理念で活動していますが、本レポートの報告内容は、一部を除き日本全薬工業株式会社の取り組みのみを記載しています。

※ 2020年～2023年に撮影したマスクなしの写真は撮影の数分間のみマスクを外し、会話なしで撮影をしたものです。

※ ©登録商標